

1 事業名等(Plan 1)

事業名	臨時駐車場対策事業							
所属名	基盤整備部	維持課	管理グループ					
第七次総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	分野	3 道路・交通	基本施策	1 便利で快適な道路環境を整備する	施策	4 道路利用環境の向上
予算科目	7	2	4	交通安全対策	費	72440	臨時駐車場対策	事業
					費			事業
					費			事業
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等								
事業の実施主体	○ 市		市以外→					
事業の実施方法	○ 直営		指定管理	○ 業務委託	団体等補助	その他→		

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	市民及び観光客等の道路網利用者	受益者数	— 人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	市中心部の渋滞を緩和する		
概要	事業の実施手法、手順	観光繁忙期には交通整理員を配置し、特に混雑が著しい春祭り・GW・お盆・秋祭りには、臨時駐車場の開設を行なう。		
	事業始期・終期	始期： 年度から	始期： 年度まで	設定なし ○
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 高山祭等、市の主要イベントと休日の重複状況を考慮し対策本部を設置する。			

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
総合計画計画額(当初)	26,000	26,000	21,350	21,000	21,000	
総合計画計画額(計画額)	26,000	26,000	21,350	21,000	21,000	
事業費 (計画・予算・見込・決算額)	予算額	26,150	25,650	21,350		
	決算・見込	22,725	20,039			
	財源	予算額	10,460	10,260		
		決算・見込	9,090	0		
	国庫支出金	予算額				
		決算・見込				
	県支出金	予算額				
		決算・見込				
	地方債	予算額				
		決算・見込				
受益者負担	予算額					
	決算・見込					
繰入	予算額					
	決算・見込					
一般財源	予算額	15,690	15,390	21,350		
	決算・見込	13,635	20,039			

H17国勢調査 96,231 人 32,174 世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価

受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位	%			
市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位	円/人	236	208	
1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位	円/世帯	706	623	
受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位	円/人			
その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位	円/人			

【成果面】

活動・成果指標	活動指標 (投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標)	指標名	臨時駐車場設置数					資料・出展 算出式	単位	力所
			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度			
活動指標	目標値		—	—	15	15	15	15	15	→
	実績値		13	19						
	達成率		—	—						
成果指標 (活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけの与えたかを表す指標)	指標名	臨時駐車場利用台数					資料・出展 算出式	単位	台	
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	成果の方向		
成果指標	目標値		—	—	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	→
	実績値		1,863	1,837						
	達成率		—	—						

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)		A:非常に高い	目的評価 A	
(現状及び判定理由)	混雑時の交通誘導に加え、特定混雑日の対策本部設置やシャトルバスの運行により円滑な市街地交通が確保できている。	B:高い		
		C:低い		
		D:非常に低い		
		②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)		②コスト面
該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)		増加	維持	減少
減少	維持	1	増加	
(判定理由)	休日の配置により毎年若干の変動はあるが、最小限必要となる準備やシャトルバス等の必要経費が概ね固定されている。	拡大		
		維持		○
		減少		
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)		③成果面		
該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)		コスト・成果ポジション		
拡大	維持	1	減少	
(判定理由)	天候やイベントの期日及び景気状況等、様々な要因により混雑状況が変化するが、大きなトラブルもなく市街地交通を確保している。	E		
		第3水準		

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点

混雑・渋滞予想に基づく、段階的な対応水準の設定が必要。

一次評価 主管課

評価区分

III

判断の理由
事業の必要性は重要である。準備的、経常的な経費であるため、コスト削減は困難である。

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案 (下記チェック)

現状維持 ■ 改善・継続 終期設定 休止 廃止 完了

交通誘導業務の人員配置やシャトルバスの配車数等を見直し、費用軽減に努める。

活動の方針
次年度の実施方針
同上

総合評価

コスト	成果	評価区分
中	中	III

判断の理由等
「II」以上の水準に向けた改善が必要

年間400万人以上の観光客が訪れる本市にとっては駐車場の確保は重要な課題である。観光シーズンの需要に応じた駐車場の確保は不可能であり、臨時駐車場で対応することは費用対効果において最も有効である。今後は駐車場案内の強化により、中心部の渋滞を緩和を図るとともに、大型バスの乗り入れ規制などについても検討が必要である。